

## 第 14 回基準諮問会議を開催

2012年3月7日、財務会計基準機構（FASF）において、第14回基準諮問会議（議長 野崎邦夫住友化学(株)常務執行役員）を開催し、2つのテーマについて審議が行われた。審議の様子は以下のとおりである。

### (1) FASF（企業会計基準委員会（ASBJ））のガバナンスについて

西野 FASF 事務局次長より、FASF（ASBJ）のガバナンスについての報告が行われ、2011年11月18日の理事会において設置が承認された「委員推薦・評価委員会」及び「適正手続監督委員会」について主に説明があった。その説明に対し委員より、適正手続監督委員会の新設の趣旨及び基準諮問会議と適正手続監督委員会の役割の違いについて質問があり、FASF から、適正手続監督委員会は理事会のガバナンス強化の一環から新設され、職務としては ASBJ が基準開発を行う際のデュー・プロセスについて検討するものであること、また、基準諮問会議と適正手続監督委員会は役割を分担するのではなく、多チャンネルで ASBJ の審議をモニタリングしていくことを想定しているという説明が行われた。

### (2) ASBJ の最近の活動状況について

2011年9月5日に開催された前回の基準諮問会議以降の ASBJ の活動状況について、報告が行われた。

都 ASBJ 常勤委員より、国内基準の開発・整備に係る活動として公表した会計基準等や会計基準全体の開発状況についての説明、国際会計基準審議会（IASB）「アジェンダ・コンサルテーション 2011」に対するコメント、IASB の改訂公開草案「顧客との契約から生じる収益」等国際的な活動についての説明が行われた。また、2012年1月より始動している「人材開発支援プログラム」の構築についての説明も行われた。これらの説明に対して委員より、各プロジェクトの現在の検討状況と今後のスケジュールについての質問があり、ASBJ から、「単体財務諸表に関する検討会議」に関連するプロジェクトの「無形資産」及び「企業結合ステップ 2」に関しては、「開発費の資産計上」及び「のれんの非償却」について、当面は現行の処理を継続する内容の提案を行っていること、「退職給付ステップ 1」については連結と単体で異なる内容の提案を行っており、現在は最終の基準化に向けた議論を ASBJ で行っていること、「包括利益の表示（単体財務諸表への適用）」については、単体については当面は包括利益の表示は行わない提案を実施しているという説明があった。また、その他、金融商品、リース、収益認識、連結などのコンバージェンスに関連する項目は、企業会計審議会の議論の動向等も踏まえ、審議を続けているという説明が行われた。

その他にも、委員より今回の税制改正への対応が迅速に図られたことは評価できるが、一方で日本公認会計士協会における繰延税金資産の回収可能性に関する実務指針についても検討が必要であるとの意見があり、また、それに関連して、今後も日本公認会計士協会の実務指針は存続するのか、ASBJに統合した方が良いのではないかと質問等があった。ASBJからは、ASBJ設立当時の取決め（ASBJが基本的な方針を決定し、既存の実務指針については日本公認会計士協会がメンテナンスを行う）の説明、また、これまで順次、リース会計、連結範囲等の実務指針について、ASBJの適用指針として取り組まれてきている旨の説明が行われた。